

平成 28 年 7 月 6 日

出場校 顧問・監督 様

全国高体連空手道専門部審判委員会

この度は、全国高等学校空手道選手権大会出場おめでとうございます。平素は、斯道発展になにかとご理解ご協力を頂き感謝申し上げます。

さて、この度の大会出場に関しまして、特に下記の点にご留意頂きますようお願い申し上げます。以前よりお知らせしております点と、新たな変更点なども記してありますので必ずお読みください。

本大会は、公益財団法人全日本空手道連盟競技規定・審判規定、並びに公益財団法人全国高体連空手道専門部申し合わせ事項によっておこなわれます。競技上の事については、最終的には審判団の決めたことに従い、円滑な競技運営にご協力ください。

「安全具」

安全具については、決められた物を正しく装着してください。団体戦は、5人全員が試合開始時に全ての安全具を装着していなければいけません。(使い回しは出来ません) シンガード、インステップガードは、平成19年度選抜大会から義務付けられております。

※メーカーは「東海堂、守礼堂、ヒロタ、東京堂インターナショナル、ミズノ」の5社のみで、全国高体連指定品となっておりますのでご注意ください。(マークの付いているものとなります)

※ミズノ製の首かけ式でないプロテクターも使用可となっています。

「組手競技について」

平成27年4月に全空連がルールの一部改定をおこないましたので、改定されたルールで実施されます。

<主な改定点>

- ・両手で相手を掴む行為は禁止となる。ただし、相手の蹴り足を持ってもう片方の手で相手を掴んで投げる場合は認められる。
- ・片手で相手を掴んでの攻撃、倒した後の攻撃は一瞬であれば認められる。
- ・相手の投げなどによって下になった場合、一瞬片手で相手を掴むことは認められる。

<その他確認して欲しい点>

- ・ジュニア・カデットルールとなります。(上段突きは触れたら反則となり、メンホーから10センチ以内の突きも決まっていれば得点となります。)

- ・倒した（倒れた）相手への蹴りは認められますが、十分に注意をしてください。
- ・相手の蹴り足を持つての投げは認められます。（ただし、危険な投げは禁止です）
- ・10カウントルールを採用します。
- ・団体戦は、1，2回戦は勝敗がついても全員が試合をおこないますが、3回戦以降は勝敗がついた段階で終了します。
- ・個人戦には再試合はなく、同点の場合は判定がとられます。団体戦は、代表決定戦以外は同点の場合引き分け、代表決定戦のみ同点の場合は判定をとります。
- ・負傷を装った行為（誇張）は、反則注意以上のC2の罰則になります。
- ・帯より下を掴んだ場合はC2、投げた場合はC1の罰則となります。
- ・無防備は当たった時のみ適用され、技の得点や、C1の罰則と同時に使われません。
- ・ペナルティーにより、相手へポイントが入ることはありませんが、「反則」になりますと負け（8-0）になります。
- ・約25秒間前後互いに何もしない場合、「不活動」というC2の罰則になります。
- ・C1による反則勝ちを2回した選手（一発反則勝ちまたは積み重ねによる反則勝ち）はそれ以降の組手競技（団体戦、個人戦ともに）には参加出来ません。
- ・終了10秒未満での、場外、逃避行為は、それ以前にC2の罰則が警告以下であれば（罰則がない場合も入れて）反則注意となり、C2の反則注意があれば反則となります。

※ 団体戦のオーダー記入は、必ず監督がおこない、記入ミスのないようにしてください。

※ 応援の声が大きくなると、主審の「やめ」の声が選手に聞こえにくい場合があります。技を取ったあと「やめ」が聞こえず当ててしまつて反則ということがおきます。監督・顧問の先生は、応援の仕方等について、以前にも増して「拍手のみ」で行うことを徹底してください。

「形競技について」

- ・礼法については、個人形、団体形ともに一試合4回の礼になっています。
具体的な方法については、後項の「形・組手の礼法について」をご一読ください。
- ※ 個人・団体形ともにTatamiに入るとき出るときは例はしないでください。
また、形の開始・終了時の2回の礼をしない場合は反則となります。
- ・不必要な息吹・足音、道着をたたく行為などは大幅な減点となりますので十分に注意してください。
- ・帯にゴムやその他の物を付けることは禁止行為になります。
- ・指定形の使用について

1，2回戦	第1指定形（繰り返し使用可）
3，4回戦	第2指定形（繰り返し使用可）
5回戦以上	4回戦までに使用していない形

5 回戦以上の形の使い方は、形の種類を A、B、C とすると以下ようになります。

	5 回戦	準決勝	決勝
(1)	A	A	A
(2)	A	B	B
(3)	A	A	B
(4)	A	B	C
(5)	A	B	A

「空手道着について」

- ・ 上着の袖は最長手首までとし、肘から手首の間の中程より短くてはいけない。
また、上着の袖をまくってはいけない。
 - ・ ズボンの長さは、少なくとも下肢の 3 分の 2 を覆う長さとし、踵が隠れてはならない。
 - ・ 袖の空き部分、ズボンの空き部分に関しては片側に寄せた状態で、余っている部分長さが 8 ～ 2 0 cm でなければならない。
- ※ 必要と判断したときには、実際に測定し、それで違反と判明した場合は 1 分間ルールを適用しますので、十分に注意してください。
- ・ 上着の紐は必ず付いていなければならず、さらに試合中は結んでいなければいけません。
また、上着の胸紐は付けてはいけません。

「監督」

臨時監督が付ける場合は、自校の試合が並行している場合です。また、監督席に選手を読んで指示することは出来ません。